

主 な 異 常 気 象

災 害 区 分 発 生 月 日	気 象 概 況
令和 5 年 梅雨前線による 大 雨 等 令和 5 年 5 月 2 8 日 ～ 7 月 2 2 日	5 月 28 日から 7 月 22 日にかけて、梅雨前線が沖縄・奄美から本州付近に停滞し、断続的に活動が活発となった。前線の影響により、各地で大雨となった。 6 月 1 日から 3 日にかけては、梅雨前線が本州付近に停滞し、前線に向かって台風第 2 号周辺の暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となった。西日本から東日本の太平洋側を中心に大雨となり、高知県、和歌山県、奈良県、三重県、愛知県及び静岡県では線状降水帯が発生し、1 時間降水量が観測史上 1 位の値を更新した地点があった。1 日から 3 日にかけての総降水量は、東海地方の多い所で 500 ミリを超えたほか、四国地方、近畿地方、関東地方でも 400 ミリを超え、平年の 6 月の月降水量の 2 倍を超えた地点があった。 7 月 7 日から 10 日にかけては、梅雨前線が西日本から東北地方付近に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となった。九州北部地方や中国地方をはじめ、西日本から東北地方にかけての日本海側を中心に広い範囲で大雨となり、島根県、福岡県、佐賀県及び大分県では線状降水帯が発生した。7 日から 10 日にかけての総降水量は、九州北部地方の多い所で 600 ミリを超える大雨となり、九州北部地方や中国地方では、平年の 7 月の月降水量を超えた地点があった。この大雨において、気象庁は 10 日に福岡県と大分県を対象に大雨特別警報を発表し、最大級の警戒を呼びかけた。 7 月 14 日から 16 日にかけては、梅雨前線が東北地方に停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込んだ影響で、前線の活動が活発となった。東北北部を中心に大雨となり、秋田県では、24 時間降水量が観測史上 1 位の値を更新した地点があったほか、14 日から 16 日にかけての総降水量は、多い所で 400 ミリを超え、秋田県や青森県では平年の 7 月の月降水量を超えた地点があった。 これらの大雨の影響で、西日本や東日本、東北地方を中心に土砂災害、洪水災害、浸水害等が発生した。また、住家被害が発生し、停電、断水、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、鉄道の運休等の交通障害が発生した。

○出典：令和 5 年度災害時自然現象報告書（気象庁）